

日本学術会議憲章検討分科会（第2回）議事要旨（案）

1. 日 時：令和7年12月25日（火） 17：30～19：00
2. 場 所：オンライン開催
3. 出席者：磯博康委員長、中村征樹委員、芳賀満委員、加藤和人委員、樋田京子委員、
沖大幹委員、森口祐一委員

4. 議事次第

- （1）前回議事要旨（案）について
- （2）日本学術会議憲章骨子案について

5. 配布資料

- ・資料1 前回議事要旨（案）
- ・資料2 日本学術会議憲章骨子案
- ・参考資料1 参考資料
- ・参考資料2 ありたい日本学術会議像の各部提案内容と分析

6. 議事概要

（1）日本学術会議憲章骨子案について（主な意見）

（憲章の対象）

- ・憲章は、会員と職員が一体となって、学術会議が十分に役割を発揮できるような体制を作るという意味で、職員も対象とすることが良いのではないか。

（構成・表現）

- ・学術会議の活動の自主性・自律性については、独立という言葉ではなく「自律」や「中立」という言葉で表現するのが良いのではないか。自律は、研究者集団として査読などを通じて自らを律する意味を含む。
- ・平和的発展への寄与などは、最初の方の項に記載すべきではないか。この点や、未来世代への責任という観点が先にあり、その実現のために学術会議はこうあるべきであるという構成にすることが良いのではないか。

（社会との関係性）

- ・現代の社会では、シチズンサイエンスや市民参画が重要になり、科学者コミュニティが従来よりも広がっている。社会と連携しながら、学術会議の役割を発揮するというのを改めて考えることが必要である。
- ・上から目線な表現ではなく、国民と一緒にやっていくという表現が重要である。
- ・学問や科学を尊重する、エビデンスに基づく社会が重要ではないか。また、今の社会が必ずしもそうではないのは何故かということを考えると、学術的な正しさは上から目線な感覚がある。学術に対して社会が信頼を持ち、共感することが重要であり、社会から共感してもらうという要素が憲章に含まれると良いのではないか。
- ・双方向での対話が重要である。学術に何を求められているかについて耳を傾けてい

く必要がある。

- ・研究者の中での人材育成だけでなく、科学・学術が面白いから学者になりたいという意欲を持ってもらえるよう、次世代を育てることが重要ではないか。

(憲章に必要な観点)

- ・3部制である学術会議の学際性、「統合知」を強みとして発揮していくべきである。
- ・社会課題の解決も重要であるが、社会から直接的に要請されていない課題の研究も重要な人類への貢献であり、憲章にはその要素を含めるべきである。
- ・継承と改革が重要である。良いものを受け継ぎ、変えるべきものを変えるということは人類全体にとって重要である。次世代への継承や育成とも繋がっている。
- ・人類がいなくなった後のような先の未来まで想定するという時間軸を持つことや、地球外の宇宙に対する責任という広い視点も必要である。

(2) 以上の議論を受けて、次回は文章化した憲章案について議論することとなった。

以 上